

「生活科」における学習・指導の改善充実

戸 田 浩 暢*

(2018年12月9日 受理)

Improving and Enhancing the Education and Instruction of Living Environment Studies

Hironobu TODA*

This paper discusses improving and enhancing the education and instruction of Living Environment Studies. First, in the report published by the Central Council for Education on 21st December, Heisei 28 (2016), it analyzes “viewpoints and ways of thinking” in accordance with the characteristics of each subject. Next, in the section of Living Environment Studies in the Course of Study for Elementary Schools revised based on this report, the paper continues to analyze “viewpoints and ways of thinking” specific to Living Environment Studies. Focusing on three specific classes, this paper also presents an improved teaching plan for ideal classes. In this paper, to promote viewpoints and ways of thinking needed in Living Environment Studies, the review was made from the point of “subjective, interactive and deep learning” specific to Living Environment Studies.

Keywords: Living Environment Studies 生活科, Courses of Study 学習指導要領, elementary schools 小学校

1. はじめに

平成29年3月31日に次期小学校学習指導要領生活が告示され、平成32年4月1日から実施される。これは、平成28年12月21日に中央教育審議会より答申された、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（以下「答申」と記す）等に基づき実施されることとなった。

今回の改訂において、生活科の目標が大幅に変更されるとともに、内容に関しても大きく見直しが行われている。これは、「答申」に示された、「これからの教育課程やその基準となる学習指導要領等には、学校教育を通じて育む『生きる力』とは何かを資質・能力として明確にし、教科等を学ぶ意義を大切にしつつ教科等横断的な視点で育んでいくこと、社会とのつながりや各学校の特色づくり、子供たち一人一人の豊かな学びの実現に向けた教育改善の軸としての役割が期待されている。」¹⁾に基づき、学習指導要領等の枠組みが見直されたためである。

このような生活科に関して、今後、どのような授業が

求められるのであろうか。

本稿では、生活科固有の「見方・考え方」について概観し、これらを育成する生活科の学習・指導の改善充実を図るためにはどのような授業の工夫をすれば良いか、具体的な授業実践を取り上げ、「主体的・対話的で深い学び」の観点を意識したより改善された指導計画を提示したい。

2. 「見方・考え方」を育成する「主体的・対話的で深い学び」

「答申」では、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」に関して、「子供たちは、各教科等における習得・活用・探究という学びの過程において、各教科等で習得した概念（知識）を活用したり、身に付けた思考力を発揮させたりしながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。こうした学びを通じて、資質・能力がさらに伸ばされたり、新たな資質・能力が育まれたりしていく。」²⁾としている。そして、「その過程において

* 広島女学院大学人間生活学部児童教育学科教授

は、“どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか”という、物事を捉える視点や考え方も鍛えられていく。こうした視点や考え方には、教科等それぞれの学習の特質が表れる」³⁾とし、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が『見方・考え方』であり、各教科等の学習の中で働くだけでなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするものとなる。」⁴⁾と示している。

これに対応し、生活科固有の「見方・考え方」に関しては、次の3点をあげている。

1点目は、「生活科では、具体的な活動や体験を通して、児童の生活圏に存在する身近な人々、社会及び自然を学習の対象として扱う。その際、対象を自分との関わりで捉えることとともに、人々、社会、自然を一体として捉えることが特徴である。」⁵⁾としている。2点目は、「具体的な活動や体験を通して捉えた対象については、比較したり、分類したり、関連付けたりなどして解釈し把握するとともに、試行したり、予測したり、工夫したりなどして新たな活動や行動を創り出していくことを通して、自分自身や自分の生活について考え、そこに新たな気付きを生み出すことを期待している。こうして児童はそれぞれの対象のよさや特徴、自分との関係や、対象同士の関わりに気付いていく。」⁶⁾としている。3点目は、「これらを踏まえ、生活科の特質に応じた『身近な生活に関わる見方・考え方』としては『身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することなどを通して、自分自身や自分の生活について考えること』と整理することができる。」⁷⁾としている。

また、『小学校学習指導要領解説生活編』では、生活科固有の「見方・考え方」に関して、「身近な生活に関わる見方は、身近な生活を捉える視点であり、身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかという視点である。また、身近な生活に関わる考え方は、自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程の中にある思考であり、自分自身や自分の生活について考えることやそのための方法である。具体的な活動を行う中で、身近な生活を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとするようになり、そこでは『思考』や『表現』が一体的に繰り返し行われ、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されることを示している」⁸⁾としている。

このような生活科固有の「見方・考え方」を育成するために、学習・指導の改善充実に関して、「主体的・対話

的で深い学び」では、「アクティブ・ラーニングの視点による生活科の授業改善は、これまでと同様に、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識することが重要である。」⁹⁾とし、「主体的な学び」の視点として3点、「対話的な学び」の視点として2点、「深い学び」の視点として2点をあげている。

3. 学習・指導の改善充実の具体

改訂された生活科に関して生活科固有の「見方・考え方」を育成する「主体的・対話的で深い学び」についてみてきたが、今後望まれる授業に関して考察をしていきたい。

ここでは、生活科の改訂を主導した文部科学省初等中等教育局視学官の田村学氏が編著者となった、『生活・総合 アクティブ・ラーニング』の中で提示してある授業を取り上げて、より改善された授業構成について考えて行きたい。

取り上げるのは、「この秋オープン ほくたちの夢の国」の授業¹⁰⁾と、「動くおもちゃであそぼう」の授業¹¹⁾、「大きくなったわたしたち」の授業¹²⁾である。

(1)「この秋オープン ほくたちの夢の国」の指導計画

最初に取り上げる授業の指導計画は表1¹³⁾(稿者一部改変)である。

本授業は単元を3部構成にして27時間掛けて行われている。

第1部の第1時～8時では、「自然に湧き出る思いや気付きを大切にするため、自由に遊ぶ時間を設ける。その後、萩っ子の森のよさを話し合う中で、今後どのようなことをしていきたいかについて話を深めていく。また、活動の目標を明確にし、追究していく道筋をつくる。」¹⁴⁾ということを企図している。これに対応して、第1時～5時では、自由遊びや野外ゲームをする(・発見したことや気付いたことなどを伝える・見付けた物を調べる・見付けた物を使って工作をする・保育所の年長さんと遊ぶ)活動を設定し、第6～8時では、まとめる(・萩っ子の森のよさを話し合う・どんなことができそうか話し合う・どんな遊びができるか考える)活動を設定してある。

第2部の第9時～24時では、「問題が解決できるように、何度も萩っ子の森へ出かけられる時間を設ける。また、毎時間の振り返りから、現在の問題点を共有させ、次時への見通しをもたせる。魅力が詰まった遊びになるように、実際にみんなで遊び、よかった点や改善点を話

表1 「この秋オープン ほくたちの夢の国」の指導計画

単元名：「この秋オープン ほくたちの夢の国」	
【本単元の目標】 身近な人々、社会及び自然とかわりながら、自然物を活用した遊びをつくったり楽しんだりし、周囲の人の言動や可能性に気づき、意欲と自信をもって生活することができるようにする。	
1 萩っ子の森ってどんなところ？	
第1～5時	自由遊びや野外ゲームをしよう ・発見したことや気付いたことなどを伝える。 ・見付けた物を調べる。 ・見付けた物を使って工作をする。 ・保育所の年長さんと遊ぶ。
第6～8時	まとめよう ・萩っ子の森のよさを話し合う。 ・どんなことができそうか話し合う。 ・どんな遊びができるか考える。
2 ほくたちの夢の国をつくろう	
第9～15時	遊びづくりをしよう ・つくりたい遊びごとに班をつくる。 ・班ごとに遊びをつくる。 ・毎時間の振り返りから達成できたことと次時の目標を立てる。 ・おみやげ班の提案で、おみやげづくりをする。 ・現段階の遊びを年長さんに遊んでもらう。
第16～21時	各班の遊びをみんなで遊んでみよう ・遊びを発表する（全5班）。 ・お客さんになって遊んでみる。 ・よりよい遊びを目指し、よい点や改善点を話し合う。 ・再度班活動をする。
第22～24時	宣伝しよう ・宣伝方法を考える。 ・パンフレットをつくる。 ・パートナーと年長さんに宣伝しに行く。
3 夢の国、オープン	
第25時	夢の国をオープンしよう
第26～27時	楽しかったね夢の国 ・当日の様子や感想を話し合う。 ・お客さんからの感想を聞いて目標が達成できたかを考えたり、ワークシートや写真から自分たちの軌跡を振り返ったりする。

し合い、練り直す時間を設ける。」¹⁵⁾ ということを企図している。これに対応して、第9～15時では、遊びづくりをする（・つくりたい遊びごとに班をつくる。・班ごとに遊びをつくる。・毎時間の振り返りから達成できたことと次時の目標を立てる。・おみやげ班の提案で、おみやげづ

くりをする。・現段階の遊びを年長さんに遊んでもらう。）活動を設定し、第16～21時では、各班の遊びをみんなで遊んでみる（・遊びを発表する（全5班）。・お客さんになって遊んでみる。・よりよい遊びを目指し、よい点や改善点を話し合う。・再度班活動をする。）活動を設定し、第22～24時では、宣伝する（・宣伝方法を考える。・パンフレットをつくる。・パートナーと年長さんに宣伝しに行く。）活動を設定してある。

第3部の第25時～27時では、「身近な人々（パートナーの5・6年生と保育所児）を招待し、その感想やこれまでの振り返りをもとに、学習の奇跡を確認し、達成感や自己肯定感をもたせ、生活への還元を図る。」¹⁶⁾ ということを企図している。これに対応して、第25時では、夢の国をオープンする活動を設定し、第26～27時では、楽しかったね夢の国（・当日の様子や感想を話し合う。・お客さんからの感想を聞いて目標が達成できたかを考えたり、ワークシートや写真から自分たちの奇跡を振り返ったりする。）という活動を設定してある。

一方、より望ましい授業構成について、生活科固有の「主体的・対話的で深い学び」に着目した場合、次の表2に示す改善した指導計画が考えられる。

第1部の第1時～5時では、「自由遊びや野外ゲームをする（・自由遊びや野外ゲームをする。・発見したことや気付いたことなどを班内で伝え交流する。・見付けた物を調べ班内で交流する。・見付けた物を使って工作をし、班内で交流する。保育所の年長さんと班単位で遊ぶ。）」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第6時～8時では、「まとめる（・萩っ子の森のよさを各自が書き出し、班内で話し合う。・どんなことができそうか各自が書き出し、班内で話し合う。・どんな遊びができるか各自が書き出し、班内で考える。）」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。

第2部の第9時～15時では、「遊びづくりをする（・前時の話し合いに基づき、つくりたい遊びごとに班をつくる。・班ごとにルールを考え、遊びをつくる。・毎時間の遊びの感想を書く。・自分や班の活動を振り返る。・楽しかったことや課題を班内で話し合い、次時の遊びの目標を立てる。・おみやげ班の中で話し合い、おみやげづくりをする提案を行って、おみやげづくりをする。・現段階の遊びを班単位で年長さんに遊んでもらう。）」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第16時～21時では、「各班の遊びをみんなで遊んでみる（・班で遊び方やルールのプレゼンテーションの練習をする。・分かりやすいよう動作化を取り入れ、遊びを発表し、交流する（全5班）。・ルール等を確認し、お客さんになって遊んでもら

表2 改善した「この秋オープン ほくたちの夢の国」の指導計画

単元名：「この秋オープン ほくたちの夢の国」	
【本単元の目標】 身近な人々，社会及び自然とかわりながら，自然物を活用した遊びをつくったり楽しんだりし，周囲の人の言動や可能性に気付き，意欲と自信をもって生活することができるようにする．	
1 萩っ子の森ってどんなところ？	
第1～5時	自由遊びや野外ゲームをしよう ・自由遊びや野外ゲームをする． ・発見したことや気付いたことなどを班内で伝え交流する． ・見付けた物を調べ班内で交流する． ・見付けた物を使って工作をし，班内で交流する． ・保育所の年長さんと班単位で遊ぶ．【主】【対】
第6～8時	まとめよう ・萩っ子の森のよさを各自が書き出し，班内で話し合う． ・どんなことができそうか各自が書き出し，班内で話し合う． ・どんな遊びができるか各自が書き出し，班内で考える．【主】【対】
2 ほくたちの夢の国をつくらう	
第9～15時	遊びづくりをしよう ・前時の話し合いに基づき，つくりたい遊びごとに班をつくる． ・班ごとにルールを考え，遊びをつくる． ・毎時間の遊びの感想を書く． ・自分や班の活動を振り返る． ・楽しかったことや課題を班内で話し合い，次時の遊びの目標を立てる． ・おみやげ班の中で話し合い，おみやげづくりをする提案を行って，おみやげづくりをする． ・現段階の遊びを班単位で年長さんに遊んでもらう．【主】【対】
第16～21時	各班の遊びをみんなで遊んでみよう ・班で遊び方やルールのプレゼンテーションの練習をする． ・分かりやすいよう動作化を取り入れ，遊びを発表し，交流する（全5班）． ・ルール等を確認し，お客さんになって遊んでもらう． ・よりよい遊びを目指し，よい点や改善点を各自で書き出し，班内で話し合う． ・改善点に基づいて再度班活動をする．【主】【対】
第22～24時	宣伝しよう ・宣伝方法を各自で書き出し，班内で考える． ・各自でパンフレットの原案を考え，汎愛で話し合い，より良いパンフレットをつくる． ・パートナーと年長さんに宣伝する準備を班内で行い，宣伝しに行く．【主】【対】【深】

3 夢の国，オープン	
第25時	夢の国をオープンしよう
第26～27時	楽しかったね夢の国 ・当日の様子や感想を班内で話し合う． ・お客さんからの感想を聞いて，楽しかったことや目標が達成できたかを考えたり，ワークシートや写真から全体の感想を各自が書き，考えたことを発表して振り返ったりする．【主】【対】【深】

*「主体的な学び」：【主】 「対話的な学び」：【対】 「深い学び」：【深】

う．・よりよい遊びを目指し，よい点や改善点を各自で書き出し，班内で話し合う．改善点に基づいて再度班活動をする．)」活動を設定し，主体的・対話的な学びを意識して指導する．第22時～24時では，「宣伝する（・宣伝方法を各自で書き出し，班内で考える．・各自でパンフレットの原案を考え，汎愛で話し合い，より良いパンフレットをつくる．・パートナーと年長さんに宣伝する準備を班内で行い，宣伝しに行く．）」活動を設定し，主体的・対話的で深い学びを意識して指導する．

第3部の第25時～26時では，「楽しかったね夢の国（・当日の様子や感想を班内で話し合う．・お客さんからの感想を聞いて，楽しかったことや目標が達成できたかを考えたり，ワークシートや写真から全体の感想を各自が書き，考えたことを発表して振り返ったりする．）」という活動を設定し，主体的・対話的で深い学びを意識して指導する．

（2）「動くおもちゃであそぼう」の指導計画

次に取り上げる授業の指導計画は表3¹⁷⁾（稿者一部改変）である．

本授業は単元を3部構成にして12時間掛けて行われている．

第1部の第1時～4時では，「1年生の単元『おもちゃであそぼう』を振り返り，動くおもちゃをつくって遊ぶことの思いや願いを膨らませていく．材料を準備したり，動くように工夫してつくったり遊んだりすることができるようにする．」¹⁸⁾ということを企図している．これに対応して，第1時では，教師が制作した見本のおもちゃで遊んだり，見本のおもちゃをつくって遊んだりする活動を設定し，第2時では，自分でつくってみたいおもちゃの設計図をノートにかき，そのために必要な材料を考え，用意する活動を設定し，第3～4時では，動くおもちゃをつくったり，それで遊んだりする活動を設定してある．

第2部の第5時～9時では，「動くおもちゃで遊ぶ場所

表3 「動くおもちゃであそぼう」の指導計画

単元名：「動くおもちゃであそぼう」	
【本単元の目標】 身近にある物を使って動くおもちゃや遊ぶ場所をつくり、友達と競争したり、工夫を教え合ったりしながら、それらを改良することを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。	
1 動くおもちゃであそぼう	
第1時	教師が制作した見本のおもちゃで遊んだり、見本のおもちゃをつくって遊んだりする。
第2時	自分でつくってみたいおもちゃの設計図をノートにかき、そのために必要な材料を考え、用意する。
第3～4時	動くおもちゃをつくったり、それで遊んだりする。
2 動くおもちゃランドであそぼう	
第5～9時	動くおもちゃランドの環境を生かして、自分がつくったおもちゃで遊んだり、つくり直したりする。 動くおもちゃランドで遊んだことを友達に紹介したり、カードに書いたりして、動く仕組みについて伝え合う。 どうしたら、もっと動くようになるのかを考えて、比べたり、試したりしながらつくり直す。
3 動くおもちゃをしょうかいしよう	
第10時	動くおもちゃをつくったり遊んだりしたことを振り返り、遊びの面白さや工夫してつくったことをノートにまとめる。
第11時	動くおもちゃで遊ぶ面白さや工夫してつくったことを友達や家族に伝える。
第12時	友達や家族からのメッセージを読んで、動くおもちゃと自分とのかかわりについて振り返る。

をスロープや階段、足洗い場等があるピロティーから校庭へつづく広場を『動くおもちゃランド』と名付けた。そこで動くおもちゃで遊んだり、つくり直したりできるようにする。¹⁹⁾ ということを企図している。これに対応して、第5～9時では、動くおもちゃランドの環境を生かして、自分がつくったおもちゃで遊んだり、つくり直したり、動くおもちゃランドで遊んだことを友達に紹介したり、カードに書いたりして、動く仕組みについて伝え合ったり、どうしたら、もっと動くようになるのかを考えて、比べたり、試したりしながらつくり直したりする活動を設定してある。

第3部の第10時～12時では、「動くおもちゃの面白さを友達に伝えたり、工夫してつくったことを家族に伝える

ことで、動くおもちゃのひみつについて気付くようにする。さらに、『2 動くおもちゃランドであそぼう』を繰り返すことで、友達の気づきを試し、気づきを広げるようにする。²⁰⁾ ということを企図している。これに対応して、第10時では、動くおもちゃをつくったり遊んだりしたことを振り返り、遊びの面白さや工夫してつくったことをノートにまとめる活動を設定し、第11時では、動くおもちゃで遊ぶ面白さや工夫してつくったことを友達や家族に伝える活動を設定し、第12時では、友達や家族からのメッセージを読んで、動くおもちゃと自分とのかかわりについて振り返る活動を設定してある。

一方、より望ましい授業構成について、生活科固有の「主体的・対話的で深い学び」に着目した場合、次の表4に示す改善した指導計画が考えられる。

第1部の第1時では、「教師が制作した見本のおもちゃで遊んだり、見本のおもちゃをつくって遊んだりする」「遊んだ感想を班内で交流する」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第2時では、「自分でつくってみたいおもちゃの設計図をノートにかき、そのために必要な材料を考え、用意する」「自分のおもちゃの設計図に基づき、おもちゃの特徴を班内で伝え合う」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第3時～4時では、「動くおもちゃをつくったり、それで遊んだりする」「つくったおもちゃを班内で紹介し合い、交流する」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。

第2部の第5時～9時では、「動くおもちゃランドの環境を生かして、自分がつくったおもちゃで遊んだことの感想を書く」「各自でおもちゃを改善する点を考え、つくり直したりする」「班内で動くおもちゃランドで遊んだことを友達に紹介したり、カードに書いたりする」「各自で工夫した点やおもちゃが動く仕組みについて班内で伝え合う」「どうしたら、もっと動くようになるのかを考えて、班内で交流する」「友達のおもちゃと比べたり、試したりしながらつくり直し、遊ぶ」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。

第3部の第10時では、「動くおもちゃをつくったり遊んだりしたことを振り返り、最初につくったおもちゃと改善したおもちゃを比べながら、遊びの面白さや工夫してつくったことをノートにまとめる」「まとめたことを友達に伝える練習をする」活動を設定し、主体的な学びを意識して指導する。第11時では、「動くおもちゃで遊ぶ面白さや工夫してつくったことを再度確認し、伝えたいことを明確にして、クラス全体に発表し、家族にも伝える」活動を設定し、主体的・対話的で深い学びを意識して指

表4 改善した「動くおもちゃであそぼう」の指導計画

単元名：「動くおもちゃであそぼう」	
【本単元の目標】 身近にある物を使って動くおもちゃや遊ぶ場所をつくり、友達と競争したり、工夫を教え合ったりしながら、それらを改良することを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。	
1 動くおもちゃであそぼう	
第1時	教師が制作した見本のおもちゃで遊んだり、見本のおもちゃをつくって遊んだりする。遊んだ感想を班内で交流する。【主】【対】
第2時	自分でつくってみたいおもちゃの設計図をノートにかき、そのために必要な材料を考え、用意する。 自分のおもちゃの設計図に基づき、おもちゃの特徴を班内で伝え合う。【主】【対】
第3～4時	動くおもちゃをつくったり、それで遊んだりする。 つくったおもちゃを班内で紹介し合い、交流する。【主】【対】
2 動くおもちゃランドであそぼう	
第5～9時	動くおもちゃランドの環境を生かして、自分がつくったおもちゃで遊んだことの感想を書く。各自でおもちゃを改善する点を考え、つくり直したりする。 班内で動くおもちゃランドで遊んだことを友達に紹介したり、カードに書いたりする。 各自で工夫した点やおもちゃが動く仕組みについて班内で伝え合う。 どうしたら、もっと動くようになるのかを考えて、班内で交流する。 友達のおもちゃと比べたり、試したりしながらつくり直し、遊ぶ。【主】【対】
3 動くおもちゃをしょうかいしよう	
第10時	動くおもちゃをつくったり遊んだりしたことを振り返り、最初につくったおもちゃと改善したおもちゃを比べながら、遊びの面白さや工夫してつくったことをノートにまとめる。 まとめたことを友達に伝える練習をする。【主】
第11時	動くおもちゃで遊ぶ面白さや工夫してつくったことを再度確認し、伝えたいことを明確にして、クラス全体に発表し、家族にも伝える。【主】【対】【深】
第12時	友達や家族からのメッセージを読んで、動くおもちゃと自分とのかかわりについて振り返り、単元全体の感想を書き、発表する。【主】【対】【深】

*「主体的な学び」：【主】 「対話的な学び」：【対】 「深い学び」：【深】

導する。第12時では、「友達や家族からのメッセージを読んで、動くおもちゃと自分とのかかわりについて振り返り、単元全体の感想を書き、発表する」活動を設定し、主体的・対話的で深い学びを意識して指導する。

(3) 「大きくなったわたしたち」の指導計画

最後に取り上げる授業の指導計画は表5²¹⁾（稿者一部改変）である。

本授業は単元を3部構成にして16時間掛けて行われて

表5 「大きくなったわたしたち」の指導計画

単元名：「大きくなったわたしたち」	
【本単元の目標】 自分の成長には、家族をはじめ多くの人がかかわり、世話になっていることに気付くと同時に、成長によっていろいろなことができるようになった自分に自信をもち、これからの生活に意欲をもつことができるようにする。	
1 タイムマシーンボックスをつくろう	
第1時	箱にきれいな飾り付けをして、タイムマシーンボックスをつくる。
第2時	赤ちゃんの頃の写真を写しだし、赤ちゃん当てクイズをする。
第3時	タイムマシーンボックスを開き、写真や実物を見たり、家の人から書いてもらったカードを読んだりして感じたことをカードにまとめる。
第4時	妊婦体験・沐浴人形体験をし、思ったことを話し合い、感想を書く。
2 小さいころをしらべよう	
第5時	自分が小さい頃について調べる計画を立てる。
第6～10時	計画に基づいて、小さい頃の様子について調べる。 ・小さい頃のことをインタビューする。 ・小さい頃のことをカードにまとめる。 ・ゲストティーチャーの話を聞く。
第11時	発表のための準備をする。
第12時	タイムマシーン発表会を開く。
第13時	入学してから今までを振り返り、自分ができるようになったことを見付ける。
第14時	友達のよいところやできるようになったことを見付け、カードに書く。
第15時	自分の成長にかかわってくれた人に感謝の手紙を書く。
3 振り返りをしよう	
第16時	小さい頃の様子について調べた活動を振り返り、自分の成長について調べて楽しかったことや気付いたこと、これからの自分について考えたことを振り返り、絵や文で書き、伝え合う。

いる。

第1部の第1時～4時では、「赤ちゃんあてクイズ、妊婦体験、沐浴人形体験から生まれた頃の様子に興味をもつようにする。さらに赤ちゃんの頃の思い出の品を入れたタイムマシンボックスを開くことで、生まれる前や生まれた頃の様子に関心をもち、その頃のことを調べてみたいという意欲をもたせる。」²²⁾ということを企図している。これに対応して、第1時では、箱にきれいな飾り付けをして、タイムマシンボックスをつくる活動を設定してあり、第2時では、赤ちゃんの頃の写真を写しだし、赤ちゃん当てクイズをする活動を設定し、第3時では、タイムマシンボックスを開き、写真や実物を見たり、家の人から書いてもらったカードを読んだりして感じたことをカードにまとめる活動を設定し、第4時では、妊婦体験・沐浴人形体験をし、思ったことを話し合い、感想を書く活動を設定してある。

第2部の第5時～15時では、「両親に自分の小さい頃の様子や出来事についてインタビューし、写真や文章でまとめて、アルバムを作成する。そのなかで、自分の精神的な成長と身体的な成長に気付き、支えてくれた人々に感謝の気持ちをもたせられるようにする。まとめたことの発表会を行い互いに認め合う。」²³⁾ということを企図している。これに対応して、第5時では、自分が小さい頃について調べる計画を立てる活動を設定し、第6～10時では、計画に基づいて、小さい頃の様子について調べる（・小さい頃のことをインタビューする・小さい頃のことをカードにまとめる・ゲストティーチャーの話を聞く。）活動を設定し、第11時では、発表のための準備をする活動を設定し、第12時では、タイムマシン発表会を開く活動を設定し、第13時では、入学してから今までを振り返り、自分ができるようになったことを見付ける活動を設定し、第14時では、友達のよいところやできるようになったことを見付け、カードに書く活動を設定し、第15時では、自分の成長にかかわってくれた人に感謝の手紙を書く活動を設定してある。

第3部の第16時では、「自分の成長を振り返る活動を通して、楽しかったことや気付いたことなどを絵や文で表現しまとめさせる。そして、どのようなことを感じたのかを互いに伝え合う。いろいろなことができるようになった自分に自信をもち、これからの生活に意欲をもつことができるようにする。」²⁴⁾ということを企図している。これに対応して、第16時では、小さい頃の様子について調べた活動を振り返り、自分の成長について調べて楽しかったことや気付いたこと、これからの自分について考えたことを振り返り、絵や文で書き、伝え合う活動

を設定してある。

一方、より望ましい授業構成について、生活科固有の「主体的・対話的で深い学び」に着目した場合、次の表6

表6 改善した「大きくなったわたしたち」の指導計画

単元名：「大きくなったわたしたち」	
【本単元の目標】 自分の成長には、家族をはじめ多くの人がかかわり、世話になっていることに気付くと同時に、成長によっていろいろなことができるようになった自分に自信をもち、これからの生活に意欲をもつことができるようにする。	
1 タイムマシンボックスをつくろう	
第1時	各自でタイムマシンボックスの飾り付けをノートにかく。 箱にきれいな飾り付けをして、タイムマシンボックスをつくる。 班内で、各自のつくったタイムマシンボックスの飾り付けの特徴や工夫したことを交流する。【主】【対】
第2時	赤ちゃんの頃の写真を写しだし、赤ちゃん当てクイズをする。 家族から赤ちゃんの頃の話聞いておき、紹介する。【主】
第3時	タイムマシンボックスを開き、写真や実物を見たり、家の人から書いてもらったカードを読んだりして感じたことをカードにまとめる。 まとめたことを班内で発表し、交流する。【主】【対】
第4時	妊婦体験・沐浴人形体験をし、思ったことを班内で話し合い、感想を書く。 感想を班内で発表し、交流する。【主】【対】
2 小さいころをしらべよう	
第5時	自分が小さい頃について調べる計画を立てる。 調べるポイントについて班内で発表し交流して、調べる計画を修正する。【主】【対】
第6～10時	計画に基づいて、小さい頃の様子について調べる。 ・小さい頃のことを家族にインタビューし、家族のおもいを聞く。 ・小さい頃のことや家族のおもいをカードにまとめる。 ・ゲストティーチャーの話を聞き、各自の発表のポイントを整理する。【主】【対】
第11時	伝わりやすい発表にするためのポイントを考えながら発表のための準備をする。【主】
第12時	タイムマシン発表会を開き、感想を書く。 班内で各自の感想の交流を行う。【主】【対】
第13時	入学してから今までを振り返り、自分ができるようになったことを見付け、カードに書く。【主】

第14時	友達のよいところを考え、友達と比べながら、再度できるようになったことをカードに書き、班内で各自の感想の交流を行う。【主】【対】
第15時	自分の成長にかかわってくれた人に感謝の手紙を書き、班内で各自の感想の交流を行う。【主】【対】
3 振り返りをしよう	
第16時	小さい頃の様子について調べた活動を振り返り、自分の成長について調べて楽しかったことや気付いたこと、友達について考えたこと、家族について考えたこと、これからの自分について考えたことを振り返り、絵や文で書き、伝え合う。【主】【対】【深】

*「主体的な学び」：【主】 「対話的な学び」：【対】 「深い学び」：【深】

に示す改善した指導計画が考えられる。

第1部の第1時では、「各自でタイムマシーンボックスの飾り付けをノートにかく」「箱にきれいな飾り付けをして、タイムマシーンボックスをつくる」「班内で、各自のつくったタイムマシーンボックスの飾り付けの特徴や工夫したことを交流する」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第2時では、「赤ちゃんの頃の写真を写しだし、赤ちゃん当てクイズをする」「家族から赤ちゃんの頃の話聞いておき、紹介する」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第3時では、「タイムマシーンボックスを開き、写真や実物を見たり、家の人から書いてもらったカードを読んだりして感じたことをカードにまとめる」「まとめたことを班内で発表し、交流する」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第4時では、「妊婦体験・沐浴人形体験をし、思ったことを班内で話し合い、感想を書く」「感想を班内で発表し、交流する」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。

第2部の第5時では、「自分が小さい頃について調べる計画を立てる」「調べるポイントについて班内で発表し交流して、調べる計画を修正する」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第6時～10時では、「計画に基づいて、小さい頃の様子について調べる（・小さい頃のことを家族にインタビューし、家族のおもいを聞く・小さい頃のことや家族のおもいをカードにまとめる・ゲストティーチャーの話を聞き、各自の発表のポイントを整理する。）」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第11時では、「伝わりやすい発表にするためのポイントを考えながら発表のための準備をする」活動を設定し、主体的な学びを意識して指導

する。第12時では、「タイムマシーン発表会を開き、感想を書く」「班内で各自の感想の交流を行う」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第13時では、「入学してから今までを振り返り、自分ができるようになったことを見付け、カードに書く」活動を設定し、主体的な学びを意識して指導する。第14時では、「友達のよいところを考え、友達と比べながら、再度できるようになったことをカードに書き、班内で各自の感想の交流を行う」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。第15時では、「自分の成長にかかわってくれた人に感謝の手紙を書き、班内で各自の感想の交流を行う」活動を設定し、主体的・対話的な学びを意識して指導する。

第3部の第16時では、「小さい頃の様子について調べた活動を振り返り、自分の成長について調べて楽しかったことや気付いたこと、友達について考えたこと、家族について考えたこと、これからの自分について考えたことを振り返り、絵や文で書き、伝え合う」活動を設定し、主体的・対話的で深い学びを意識して指導する。

4. おわりに

本稿では、中央教育審議会が、平成28年12月21日に示した「答申」に関して、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」について概観した。また、「答申」に基づいて改訂された小学校学習指導要領生活に関して、生活科固有の「見方・考え方」を概観した。そして、「この秋オープン ほくたちの夢の国」の授業と、「動くおもちゃであそぼう」の授業、「大きくなったわたしたち」の授業を取り上げ、生活科固有の「見方・考え方」を育成するために、今後望まれる授業に関してより改善された指導計画を、生活科固有の「主体的・対話的で深い学び」の観点から見直し、提示した。

今後、改訂された生活科の目標や内容に対応して授業の実践がなされるわけだが、今まで30年近く行われてきた多様な授業実践・研究を踏まえながら、課題を明らかにし、生活科固有の「主体的・対話的で深い学び」に対応するような質の高い授業を開発することが求められている。

引用文献

- 1) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」p. 20, 平成28年
- 2) 前掲書1) p. 33
- 3) 同上
- 4) 同上

- 5) 前掲書1) P. 156
- 6) 同上
- 7) 前掲書1) p. 157
- 8) 文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』東洋館出版, pp. 10-11, 平成29年
- 9) 前掲書1) p. 158
- 10) 田村学編著・みらいの会著『生活・総合 アクティブ・ラーニング』東洋館出版, pp. 37-44, 2015年
- 11) 前掲書10) pp. 53-60
- 12) 前掲書10) pp. 61-68
- 13) 前掲書10) pp. 37-39
- 14) 前掲書10) p. 38
- 15) 同上
- 16) 同上
- 17) 前掲書10) pp. 53-55
- 18) 前掲書10) p. 54
- 19) 同上
- 20) 同上

- 21) 前掲書10) pp. 61-63
- 22) 前掲書10) p. 62
- 23) 同上
- 24) 同上

参考文献

- 溝上泰『生活科教育 ―21世紀のための教育創造―』学術図書出版, 1994年
- 溝上泰・小原友行共編著『生活科教育 改訂新版 ―21世紀のための教育創造―』学術図書出版, 2000年
- 小原友行・朝倉淳共編著『生活科教育 改訂新版 ―21世紀のための教育創造―』学術図書出版, 2013年
- 田村学編著・みらいの会著『生活・総合 アクティブ・ラーニング』東洋館出版, 2015年
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』日本文教出版, 平成20年
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説生活編』東洋館出版, 平成29年